

誤嚥・誤嚥性肺炎を防ぎ現在の食事を続けたい ～介護老人保健施設において介護福祉士ができること～

18CC01 井村 里湖

I. はじめに

私は、介護老人保健施設で実習を行い過去に誤嚥性肺炎を発症したことがあるA様と出会った。誤嚥は繰り返されると誤嚥性肺炎を引き起こし、高齢者や状態の悪い人は死に至ることがある¹⁾。また、平成30年の厚生労働省が出した日本の死因別死亡確率を見ると、四位に肺炎が挙げられている²⁾。今回は、介護実習Ⅲで行った計画を振り返り、介護福祉士が他にできることがあるのではないかとこの点に着目して再察する。

II. 実習先種別・実習期間

介護老人保健施設

2019年6月24日～7月22日（うち23日間）

III. 事例紹介

- ・A様 女性 90歳代
- ・性格は穏やかで楽天的。本人は自分の事を短気だと言っている。
- ・多くの時間を同席の利用者がいるとフロアで過ごされる。また、娘さんが買った計算プリントや迷路を行ったり、傾眠されていたりと自由に過ごされている。
- ・高度な難聴で右側から聞こえやすい
- ・腰椎圧迫骨折後は移動は車椅子を使用（自走可能）、ブレーキのかけ忘れあり
- ・食事は摂食条件、食事制限あり
食前にアイスマッサージを実施。
リクライニング車椅子を使用し姿勢は30度。
体は左向きで頸部は右向き。頸部は前屈位となるよう枕二つを使用する。
顔を右に向けた状態を保持するために本人の右側から介助する。
食後の姿勢は同姿勢で60分以上保持する。
食事形態は粥ゼリー、ペースト食。水分摂取は固トロミ茶で一口量はKスプーン一杯である。
食事時間は40分程度で四口に一回固トロミ茶と交互嚥下し、残留除去を行う。時々咳払いを促す。

IV. 介護の実際

1. 課題の発見と分析

A様は過去に誤嚥性肺炎を発症。摂食条件・食事制限を守り食事を摂っている。しかし、飲み込む際に左を向いてしまい本人も飲み込みづらそうな表情をされる。A様に左を向く理由を聞くと「そう教わった」と言う。このままの状態が続くと誤嚥、誤嚥性肺炎の危険性が高まる可能性がある。

食事の際にA様が理解しやすく、右を向く習慣がつくよう絵が描かれた説明本を用意することで安心・安全に食事をするのではないかと考えた。

2. 介護上の課題

摂食条件を守り誤嚥や誤嚥性肺炎を防ぐ必要がある

3. 介護目標

長期目標：今できることを一日でも長く維持することができる

短期目標：安心・安全に現在の食事を続けることができる

V. 実施及び結果

7月6日A様と作製した説明本と一緒に読む。「飲み込むときは右」と理解できている様子だったが、食べ始めると左を向いて飲み込んでしまい声掛けをし、右に注意を引いた。しかし、声掛けをしすぎ「難しい」などと言いA様の意欲を下げってしまった。

7月11日声掛けは極力行わず、ジェスチャーで右に注意を引くという方向に修正をした。9割程度右を向いて飲み込みが出来るようになり、「段々慣れてきたよ」と言って頂けた。計画の修正を行ったことでA様の意欲を維持したまま継続して実施することができた。

9割右を向いての飲み込みができ、右を向くという事を習慣的にできるようになったのではないかと感じられた。しかし実施できなかった日があると右を向いて飲み込むという事を忘れてしまうことがあり課題となった。

VI. 考察

介護実習Ⅲでは医師をはじめ、看護師、リハビリスタッフ、介護福祉職が常に利用者を支援する状況にある介護老人保健施設での食事介助を学ぶことができた。摂食条件を守り実施していたが、安全に食事を召し上がっていただくためには解剖生理、誤嚥の仕組み、摂食・嚥下の段階、嚥下の種類、解剖整理やその方にあったポジショニング³⁾、緊急時の対応⁴⁾など基礎知識の理解が欠かせない。

さらに生活の場であることを踏まえ、安全性を確保しつつも介護福祉士が他にできることがあるのではないかと検討した。例えば、日常生活や余暇時間で楽しみながら下顎運動機能の改善を目的に、うちわバレーや輪ゴム移し。呼吸機能の改善を目的に歌唱リレーやストローサッカー等があることが分かった⁵⁾。利用一人ひとりに必要な機能を改善するための様々なレクリエーションがある事を学び今後活かしていきたいと感じた。

VII. おわりに

今回の実習及びケーススタディを通し、介護福祉士ができる利用者一人ひとりに添ったレクリエーションについて学びを深め、介助を行うにあたりなぜその方法で実施するのか根拠を基に行うことが重要だと感じた。また、今回の介護過程では誤嚥について安心・安全面の取り組みしか挙げる事が出来なかったが、本人の意欲を高め継続して実施できるような楽しみを感じられる誤嚥予防のレクリエーションを取り入れることの可能性も検討することができた。

参考・引用文献

- 1) 介護福祉士養成講座編集委員会 (2018)「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規出版 p. 16
- 2) 厚生労働省 「厚生白書 平成 30 年」死因別死亡確率(主要死因) (2019 年 8 月 1 日参照)
- 3) 迫田綾子 (2013) 誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケア p. ii -viii、p. 6~15、p. 40、p. 88-89
- 4) 東嶋美佐子・渡辺 展江 (2018) 今日からできる高齢者の誤嚥性肺炎予防 p 10、11、12
- 5) 大塚祐一・宮本恵美 (2011)「摂食・嚥下障害のグループゲーム集 介護予防にも使える楽しい機能訓練！」金原出版株式会社 p. 36、40、126、128